



平成30年度予算のあらまし

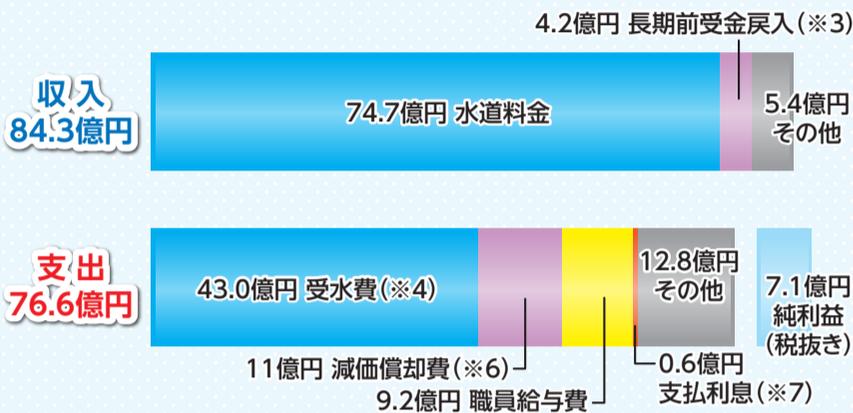
平成30年度 水道事業会計予算

平成30年度の水道事業は、16万5千戸へ年間3千892万 m^3 (1日平均10万7千 m^3)の水の供給を予定しています。また、耐用年数を経過した管路の更新等を行い、災害に強い水道施設を整備する予算として9億2千万円を計上しています。

収益的収支 ※1 (税込み) (水道水を供給するための収入と支出)

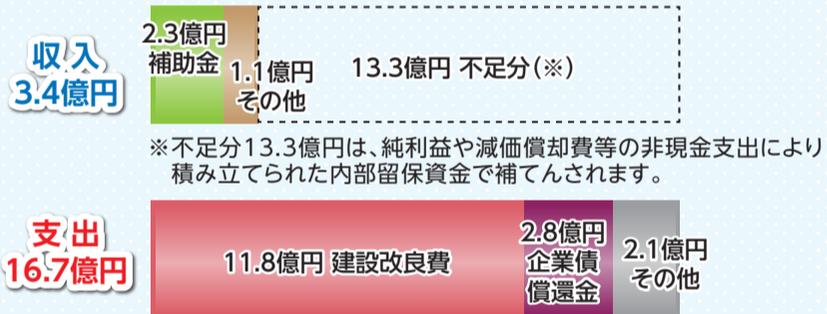
水道事業は、利用者のみなさまからお支払いいただいた水道料金で運営されています。

この水道料金は、浄水の購入費、水道施設の維持管理経費、職員の給与費等の費用に使われています。また、減価償却費等の現金の支出を伴わない費用や純利益を資本的支出の財源として留保しています。



資本的収支 ※2 (税込み) (施設を整備するための収入と支出)

水道施設を整備するために必要な経費及び企業債償還金と財源を計上しています。



平成30年度 下水道事業会計予算

平成30年度の下水道事業は、15万5千500戸から排出される汚水3千594万 m^3 (1日平均9万8千 m^3)の処理を予定しています。また、汚水処理未普及地区の解消等下水道施設を整備する予算として10億9千万円を計上しています。

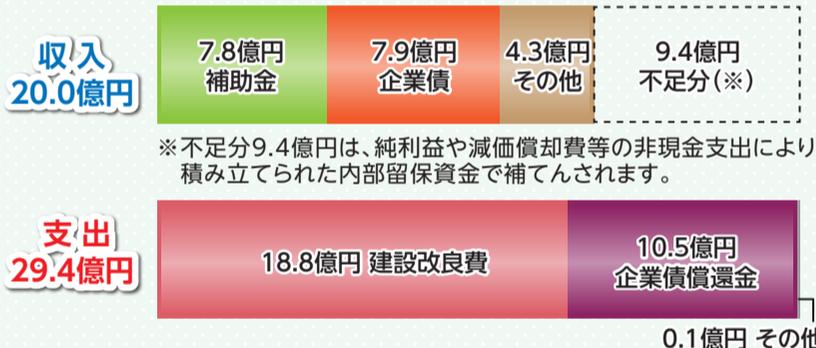
収益的収支 ※1 (税込み) (下水道を処理するための収入と支出)

汚水処理事業及び再生水利用下水道事業は、基本的に利用者のみなさまからお支払いいただいた使用料等で運営されており、雨水処理事業は、一般会計からの負担金で運営されています。これらの収入は、流域下水道汚水処理負担金、下水道施設の維持管理経費、職員給与費等の費用に使われています。また、減価償却費等の現金の支出を伴わない費用や純利益を資本的支出の財源として留保しています。



資本的収支 ※2 (税込み) (施設を整備するための収入と支出)

下水道施設を整備するために必要な経費及び企業債償還金と財源を計上しています。



【用語の説明】

- ※1 収益的収支 → 事業を運営するための財源と経費
- ※2 資本的収支 → 施設を新設・更新等するための財源と経費
- ※3 長期前受金戻入 → 償却資産(※8)の取得・改良のために受けた補助金等の収益化分(非現金収入)
- ※4 受水費 → 沖縄県企業局から購入する浄水費
- ※5 負担金 → 沖縄県の下水道施設使用に伴う費用等
- ※6 減価償却費 → 施設の価値減少分
- ※7 支払利息 → 企業債等の借入れに伴う支払利息
- ※8 償却資産 → 固定資産のうち、毎年度減価償却を行うべきもの

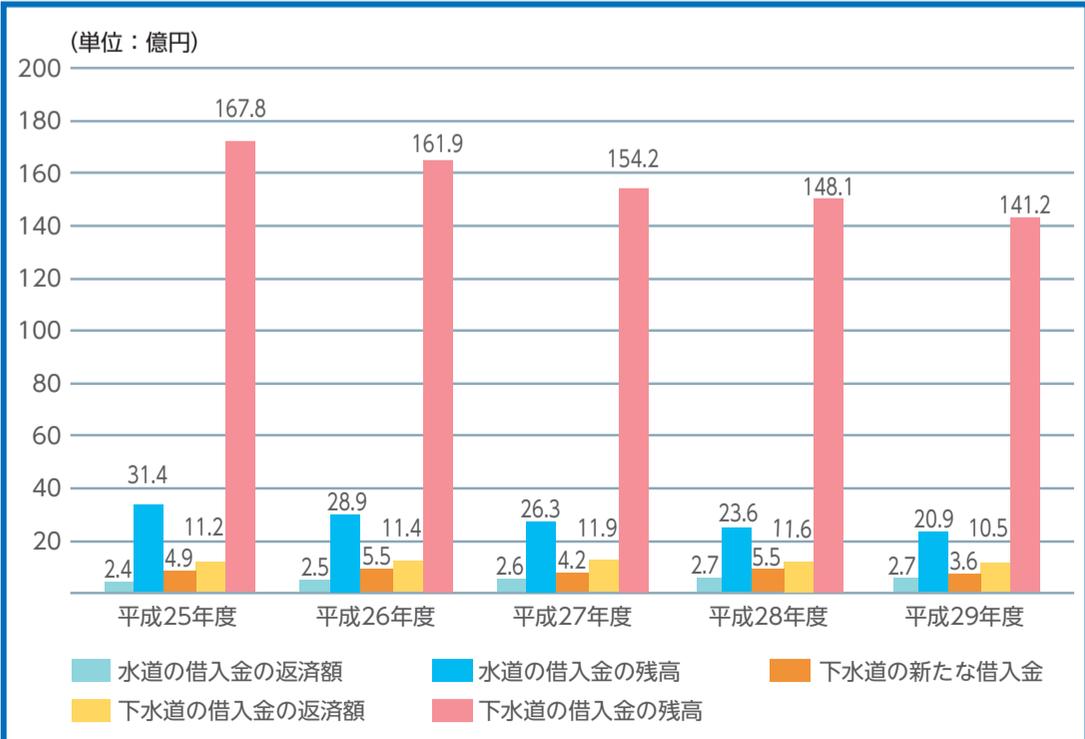
企業債残高について

水道事業に比べると、下水道事業は借入金(※1)の残高が非常に大きいことがわかります。下水道の普及率は現在98.1%に達していますが、ここまで来るために莫大な費用が投じられてきた結果が右のグラフに表れています。

水道事業では新たな借入を行っていないのに対して、下水道事業では新たな借入が続いているものの、返済金の額の方が大きくなっています。

借入金の返済は純利益(※2)を減債積立金に積み立てて行いますが、下水道事業ではそれだけでは足りないため、将来の下水道施設の更新のための内部留保資金をも返済に充てており、莫大な借入金残高が残っていることもあり、大変厳しい財政状況が続いています。

- ※1 借入金 → 企業債による外部資金の借入分
- ※2 純利益 → 事業の経営活動した結果生じた利益(純利益には非現金収入の長期前受金戻入が含まれています。)



お問い合わせ 企画経営課 TEL:941-7802

安全で安心な、おいしい那覇市の水道水!